

教科	国語	科目	現代文	単位数	2	学年	2年	科	全科
----	----	----	-----	-----	---	----	----	---	----

1 科目の目標

現代文さまざまな分野の教材を学ぶことで、話す、聞く、読む、書くという言語活動の基礎力を養い、語彙力、読解力、文章表現力などを伸ばしたい。

2 使用教科書・副教材

『新編現代文B』（東京書籍）、『同 学習課題ノート』（東京書籍）、改訂版必携国語総合セミナー（浜島書店）

3 学習の計画

	月	学 習 の 内 容	考 査 範 囲	予 定 時 数
一 学 期	4月	随 想 「さくらさくらさくら」(俵 万智)	一学期中間	9時間
	5月	随 想 「こそそめスープ」(村田沙耶香)		
	6月	小 説 「ナイン」(井上ひさし)		
	7月		一学期期末	9時間
二 学 期	8月	評 論 「生命とは何か」(長沼毅)	二学期中間	16時間
	9月			
	10月	評 論 「安心について」(廣淵升彦)	二学期期末	14時間
	11月	働くよろこび 「分からないからおもしろい」(木内昇)		
三 学 期	12月	小 説 「こころ」(夏目漱石)	学年末考査	22時間
	1月	詩 歌 「I was born」(吉野弘)		
		詩 歌 「信濃路」短歌		
	2月	評 論 『『ふしぎ』ということ』(河合隼雄)		
	3月			

4 評価の方法

主体的な言語活動	生徒への発問、それに対する解答など対話形式を大切にする。
関心・意欲・態度	出席、授業態度、反応など様々な観点から積極性を観る。
話す・聞く能力	発問に対する解答や、そこに至までの過程や反応を観察する。
書く能力	ノートや、課題等を観察する。
読む能力	音読を通じて観察する。
知識・理解	履修した事柄の積み重ねがされているか確認をする。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・毎日の授業を大切にし、積極的に取り組むこと。
- ・授業ノートや長期休業の課題などをきちんとやり、期限までに提出すること。
- ・復習などをしっかりやり、テストで点数が取れるように努力すること。

教科	国語	科目	国語総合	単位数	1	学年	2年	科	全科
----	----	----	------	-----	---	----	----	---	----

1 科目の目標

現代文、古文、漢文の様々な分野の教材を学ぶことで、話す、聞く、読む、書くという言語活動の基礎力を養い、語彙力、読解力、文章表現力などを伸ばしたい。

2 使用教科書・副教材

『新編国語総合』（東京書籍）、『同 学習課題ノート』（東京書籍）、改訂版必携国語総合セミナー

3 学習の計画

	月	学 習 の 内 容	考 査 範 囲	予 定 時 数
一 学 期	4月	評 論 「美しさの発見」(高階秀爾)	一学期中間	5時間
	5月	古 文 物語 「芥川」(伊勢物語)		
	6月			
	7月			
二 学 期	8月	小 説 「沖縄の手記から」(田宮虎彦)	二学期中間	7時間
	9月	古 文 物語 「筒井筒」(伊勢物語)		
	10月			
	11月			
三 学 期	12月	評 論 「真の自立とは」(鷲田 清一)	学年末考查	11時間
	1月	漢 文 論語 学ぶということ 人間を見つめる		
	2月			
	3月			

4 評価の方法

主体的な言語活動	生徒への発問、それに対する解答など対話形式を大切にする。
関心・意欲・態度	出席、授業態度、反応など様々な観点から積極性を観る。
話す・聞く能力	発問に対する解答や、そこに至までの過程や反応を観察する。
書く能力	ノートや、課題等を観察する。
読む能力	音読を通じて観察する。
知識・理解	履修した事柄の積み重ねがされているか確認をする。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・毎日の授業を大切にし、積極的に取り組むこと。
- ・授業ノートや長期休業の課題などをきちんとやり、期限までに提出すること。
- ・復習などをしっかりやり、テストで点数が取れるように努力すること。

教科	国語	科目	現代文B	単位数	2	学年	3年	科	全学科
----	----	----	------	-----	---	----	----	---	-----

1 科目の目標

現代文の様々な分野の教材を学ぶことで、話す、聞く、読む、書くという言語活動の基礎力を養うとともに、語彙力、読解力、文章表現力および作品をじっくり読み味わう習慣を身につけさせる。

2 使用教科書・副教材

『新編現代文B』・『同 学習課題ノート』(東京書籍)

3 学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	評論「最初のペンギン」(茂木健一郎)	一学期中間考査	10時間
	5月	随想「カフェの開店準」(小池昌代)		
	6月	小説「山月記」(中島敦)	一学期期末考査	10時間
	7月			
二学期	8月	評論「言葉は世界を切り分ける」(今井むつみ)	二学期中間考査	16時間
	9月			
	10月	小説「カンガルー日和」(村上春樹)	二学期期末考査	14時間
	11月	評論「未来のありか」(若林幹夫)		
三学期	12月	小説「ベル・エポック」(絲山秋子)「葉桜と魔笛」(太宰治)	三学期期末考査	20時間
	1月	随想「物語の外から」(岸政彦)		
	2月			
	3月			

4、評価の方法

主体的な言語活動	生徒への発問、それに対する解答など対話形式を大切にする
関心・意欲・態度	出席、授業態度、反応など様々な観点から積極性を観る
話す・聞く能力	発問に対する解答や、そこに至までの過程や反応を観察する
書く能力	ノートや、課題等を観察する
読む能力	音読を通じて観察する
知識・理解	履修した事柄の積み重ねがされているか確認をする

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・毎日の授業を大切にし、積極的に取り組むこと。
- ・授業ノートや長期休業の課題などをきちんとやり、期限までに提出すること。
- ・復習などをしっかりやり、テストで点数が取れるように努力すること。

教科	国語	科目	選択	国語表現	単位数	2	学年	3	科	商業科・食物栄養科・生活福祉科
----	----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-----------------

1 科目の目標

- ・漢字、四字熟語、ことわざなど基礎的な国語力を養い定着させる。漢字検定上級取得を目指す。
- ・国語表現の基礎を学び、表現能力を養う。

2 使用教科書

『国語表現』(大修館書店)

3 学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	1. 書いて伝える レッスン1 整った文章を書く	なし	20時間
	5月	・表記と言葉 ・係り受け ・文末表現の統一 ・適切な敬語 ・話し言葉と書き言葉(練習ノートp29まで)		
	6月	2. 自己PRと面接 レッスン1 自分を見つめて		
	7月	・人生を見つめる ・長所、短所を見つめる		
二学期	8月	・効果的な自己PR ・志望動機をまとめよう	なし	30時間
	9月	・面接の準備(進路DVDも活用)		
	10月	1. 書いて伝える レッスン2 わかりやすい文を書く ・長すぎる文を短文に ・読点を効果的に使う ・あいまいな文を避ける(練習ノートp30~37)		
	11月	レッスン3 文のつなぎ方 ・接続表現でつなぐ ・文脈でつなぐ(練習ノートp38~43) 練習ノート「国語基礎力強化ワーク」		
三学期	12月	自分史の作成	なし	20時間
	1月			
	2月			
	3月			

4 評価の方法

主体的な言語活動	授業態度を含め、目標に対しどれだけ真剣に取り組めたか
関心・意欲・態度	授業態度を含め、目標に対しどれだけ真剣に取り組めたか
話す・聞く能力	発問に対する解答や、そこに至までの過程や反応を観察する
書く能力	国語表現では作品提出により、理解度、到達度を評価する
読む能力	音読を通じて観察する
知識・理解	履修した事柄の積み重ねがされているか確認をする

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・毎時間の授業を大切に、積極的に取り組むこと。
- ・課題をきちんとやり、期限までに提出すること。
- ・漢字検定については、2回の受験をし、それぞれの目標級合格を目指してほしい。

令和4年度 「現代の国語」学習指導計画

学科	全学科			学年	1	履修	必修
教科	国語	科目名	現代の国語	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	新編現代の国語(東京書籍)			副教材(発行所)	アシスト常用漢字(数研出版) 新編現代の国語学習課題ノート(東京書籍)		
目標	① 言語活動に必要な基礎学力を身に付け、的確な表現力を養う。 ② 他者の考え方に触れ、思考力を伸ばし、よりよい生き方に結びつける。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	話す・聞く	気になるニュース	・情報を整理し、内容や、構成に注意して話す。		○	○	7	・単元ごとの課題 ・口答による重要事項の確認 ・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠 ・長期休業中の課題 ・定期考査、実力テスト 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5	随想	こそめスープ	・随筆を通じ筆者独自の考え方・感じ方を読み取り、自分に重ね合わせる。	○	○		7	
	6	評論	未来をつくる想像力	・評論を通じ、筆者の考える「社会」はどのようなものか、意見の根拠を理解し、主張をつかむ。	○	○		7	
	7	書く	文章の要旨をまとめる	・分かりやすい文章を書くことができるように、また、文章を的確に読み取る力を付けることができるよう、文章の要点を把握する。	○		○	5	
2	8	書く	文章の要旨をまとめる	・ //	○		○	3	
	9	随想	無彩の色	・効果的な具体例を用いることで自分の考えを分かりやすく伝えることが出来るという工夫を知る。	○	○		7	
	10	随想	無彩の色	・筆者の挙げる例や主張から日本文化の一部分の特色を理解する。	○	○		7	
	11	評論	真の自立とは	・筆者の主張を正しく読み取る。	○	○		7	
	12	評論	真の自立とは	・筆者の問いかけをもとに今後の自分を考える。	○	○	○	6	
3	1	随想	鍋洗いの日々	・筆者の体験と、行動に注目する。	○			6	
	2	随想	鍋洗いの日々	・筆者の体験と、行動に注目する。これからの自分たちと重ね合わせる。	○	○	○	6	
	3	書く	職業調べ	・自分の希望を分かりやすく表現する。	○	○	○	2	

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技・小テスト	ノート・レポート	課題・作品	発言	プレゼン	検定・資格	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	25			65		5	5					100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25			65		5	5					100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	25			65		5	5					100	10
評価の重点	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題												

令和4年度 「言語文化」学習指導計画

学科	全学科		学年	1	履修	必修	
教科	国語	科目名	言語文化	単位数	1	時数	35
教科書名(発行所)	新編言語文化(東京書籍)		副教材(発行所)	アシスト常用漢字(数研出版) 新編言語文化学習課題ノート(東京書籍)			
目標	① 伝統的な作品を読み、言語感覚を磨き、我が国の文化、言葉の価値を尊重する。 ② 様々な文章を読み、感性を豊かにする。						

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	小説	とんかつ	・文章の種類を踏まえ、設定、構成、表現の特色をとらえる。	○	○		3	・単元ごとの課題 ・口答による重要事項の確認 ・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠 ・長期休業中の課題 ・定期考査、実力テスト 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5	小説	とんかつ	・文章の種類を踏まえ、設定、構成、表現の特色をとらえる。会話や行動の描写に注目し、登場人物状況、心情を読み取る。	○	○		3	
	6	古文入門	古文に親しむ 児のそら寝	・古文を学ぶことで我が国の文化の継承、創造について理解する。 ・歴史的仮名遣いを理解し、説話の面白さを読みとる。	○		○	4	
	7	古文・随筆	徒然草 【亀山殿の御池に】	・随想に表れる作者の考えをとらえる。	○		○	4	
2	8	小説	羅生門	・登場人物の心情の変化を読み取り、主題を考える。	○	○		2	
	9	小説	羅生門	・ //	○	○		3	
	10	小説	羅生門	・物語の表現上の特色を読み味わい、その効果を知る。 ・登場人物を自分に置き換えて主題を考える。	○	○	○	3	
	11	小説	羅生門	・ //	○	○	○	3	
	12	漢文入門	訓読の基本	・漢文を読むための基礎知識を身に付け、漢字、漢文が我が国の文化の根底にあることを知る。	○		○	3	
3	1	漢文入門	訓読の基本	・ //	○		○	3	
	2	漢文入門	五十歩百歩	・故事成語の元となった話を読み、その話が語られた意図を理解し、我が国で故事成語の果たす役割を考える。	○		○	3	
	3	漢文入門	五十歩百歩	・ //	○		○	1	

35

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技・小テスト	ノート・レポート	課題・作品	発言	プレゼン	検定・資格	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	25			65		5	5					100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25			65		5	5					100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	25			65		5	5					100	10
評価の重点	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題												